

# 小豆島中央病院 2020年度医療事故等の包括公表について

2021年3月

小豆島中央病院では、医療の透明性を高め、住民の信頼を得るとともに医療の安全管理に資することを目的として、病院で発生した医療事故等の概略等と再発防止策を公表します。報告された医療事故等で患者さん又はご家族さんから同意を得て、公表するのは次のとおりです。

## 記

●2020年4月～2021年3月に報告された転倒・転落等の件数は210件(2月までです)、そのうち、濃厚な処置や治療を要した事例は14件でした。包括公表を家族が同意されたのは下記の5件です。

(濃厚な処置や治療を要した事例の概要及び再発防止策)

発生場所	概 略	再発防止策
病棟	4月某日入院。急性腎盂腎炎にて左ステント留置中。物音がしたため訪室するとベッドより転落している所を発見。左上肢が痛いと言っている。左上肢動かすと疼痛あり。橈骨動脈触知可能。離握手可能もやや弱め。痺れなし。左上肢腫脹・熱感なし。Vs安定。主治医報告しレントゲン施行。結果左上腕骨折あり。陥入しているため保存的治療となる。主治医より家族へ電話で説明。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ寝たきりの患者という認識だったので観察室での2点柵設置→4点柵に変更し頻回に訪室するようにした</li> <li>・スタッフ間で状態の情報共有を密にした</li> <li>・観察室に背を向けないようにし、スタッフの目が常に届くようにした</li> <li>・検温の時間をずらし詰所に居るスタッフの人数調整を行った</li> </ul>
病棟	右上下肢麻痺軽度あり、トイレ自立されている患者、11月某日 深夜 離床センサーマットのコールが鳴ったため訪室するとトイレ横で靴を履いて右側臥位で転倒している所発見。介助にて起き上がらせベッドに戻る、トイレに行こうとして滑ったと本人話す、右手関節の痛み訴えと尺骨側に打撲痕のようなものあり、関節の屈曲はできないが手指の動きあり。XP・CTの結果、右橈骨・尺骨骨折ありシーネ固定三角筋使用で様子を見る。腫脹しているが循環障害発現なし。翌日、橈骨骨癒合術OPとなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P-トイレ使用時は滑り止めマットの設置を行う</li> <li>・離床センサーマットから離床センサーキャッチに変更する。</li> <li>・排尿サイクルがわかれば事前に声掛けをする</li> </ul>
病棟	神経調節性失神疑いにて入院中の患者。ベースに慢性心不全・腎不全・認知症・貧血の既往有り。12月某日デールームにてシャワー待ち(車椅子乗車中)をしている時に、自己で車椅子より動き、右側頭部を下側にして転倒しているのを発見した。本日両大腿骨x-p.頭部CTなど精査の結果、右大腿部転子下骨折の診断有り、翌日OPとなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デールームでシャワー待機をする場合には必ずスタッフの目の届くところ、訴えを表出しやすい環境下に置くこと。</li> <li>・部屋で待機することも検討するべきだった</li> <li>・訴えを傾聴し声掛けするなどにより確認する必要があった</li> <li>・認知症で転倒リスクのある患者は全体申し送りで情報を共有する(共通認識を持つ)</li> </ul>

発生場所	概 略	再発防止策
手術室	<p>左慢性硬膜下血腫剪刀洗淨術の緊急手術中。生食で満たされた血腫腔にエアが入り込まないようにバーホールをベンシーツ(10cm×3cm)で閉口していたところベンシーツ2枚が孔から血腫腔内に落下した。ベンシーツ1個は回収できたが1個が行方不明となった。患者に説明術中小さなベンシーツ1枚が脳表に落下した。内視鏡で発見、回収を試みたが困難であったためベンシーツを残したまま閉創し手術を終了した。今後これが原因で感染、炎症など生じるようなら摘出手術を要する場合があったが、その後問題無く退院された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OP器機展開時、ベンシーツの術野確認糸は切らない</li> <li>・術野確認糸を鉗子で把持しておき、穿頭孔より落下しても回収出来る様にする</li> <li>・手順の見直し周知・徹底</li> </ul>

発生場所	概 略	再発防止策
病棟	<p>大動脈解離手術後、1月某日に急性期病棟から転棟。詰所前で、「ゴン」と鈍い音あり。駆け寄ると、右大腿を上にした状態で倒れているのを発見。右後頸部・右大腿部痛あり。目撃者はいなかったが、部屋からディルームに杖歩行で移動しており転倒。右大腿骨頸部骨折と診断。翌々日手術となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転棟した時点で、患者さんのADLや安静度を確認し、全員に周知していく</li> <li>・リハビリ担当者と報・連・相を密にしていく</li> <li>・病棟内はシルバーカー歩行にし、リハビリの時や看護師見守りで杖歩行とし、安全に入院生活が送れるようにする。</li> <li>・ベット周囲も本人が使いやすい環境を整える</li> </ul>